

TICAD7 JICAサイドイベント

2019年8月2日
JICA農村開発部

No.	開催日時	イベント名	会場	使用言語
1	2019/8/27 (火) 10:00～12:00	持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた産官学連携促進のあり方について ー開発金融機関 (DFIs) との協働による具体的な取り組みに向けてー	JICA横浜 「かもめ」	日本語 英語 フランス語
2	2019/8/27 (火) 10:30～17:00	「アフリカのきれいな街プラットフォーム (ACCP)」第2回全体会合	パシフィコ横浜 「展示ホール B-02」	日本語 英語 フランス語
3	2019/8/27 (火) 13:00～15:00	イノベーションを通じたアフリカの社会・経済構造転換	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語
4	2019/8/27 (火) 13:30～17:00	アフリカにおける持続可能な都市とコネクティビティ向上の実現 ー質の高いインフラがアフリカの都市にもたらす可能性ー	パシフィコ横浜 「展示ホール C」	日本語 英語 フランス語
5	2019/8/27 (火) 16:00～18:00	IFNAを通じた全アフリカでの栄養改善 ー栄養素やセクター連携に着目した活動の優良事例、課題、可能性ー	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語
6	2019/8/27 (火) 16:00～18:00	アフリカ科学技術のための高度人材育成と大学間連携	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
7	2019/8/27 (火) 18:00～19:30	アフリカの開発に果たすスポーツの役割	パシフィコ横浜 「展示ホール B03」	日本語 英語 フランス語
8	2019/8/28 (水) 10:00～12:00	アフリカの未来の成長を支える電力セクターのイノベーション	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
9	2019/8/28 (水) 13:00～14:30	人間中心の「法の支配」の実現に向けて ー児童労働撤廃の取組みからの学びー	JICA横浜 「かもめ」	日本語 英語 フランス語
10	2019/8/28 (水) 13:00～15:00	サブサハラ・アフリカ 気候変動との闘い	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
11	2019/8/28 (水) 14:00～17:00	女性と少女が変えるアフリカの未来 ービジネスを通じた社会変革の可能性ー	パシフィコ横浜 「展示ホール B02」	日本語 英語
12	2019/8/28 (水) 15:30～17:00	アフリカにおける人獣共通感染症との闘い：日・OIE協調プログラム	パシフィコ横浜 「アネックスホール F203」	日本語 英語
13	2019/8/28 (水) 16:00～18:00	日本企業×アフリカ×JICA ー現地の課題をビジネスに変えるー	JICA横浜 「かもめ」	日本語 英語 フランス語
14	2019/8/28 (水) 16:30～18:15	ABEイニシアティブを通じたアフリカと日本の懸け橋 ー日本企業のアフリカでのビジネス促進に向けてー	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
15	2019/8/28 (水) 17:00～19:00	アフリカの未来を創るこれからの教育	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語
16	2019/8/29 (木) 9:00～10:40	移動を強いられている人々 ー連帯とパートナーシップの発展へ向けー	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語
17	2019/8/29 (木) 10:00～11:30	100万人の農家にSHEPを	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
18	2019/8/29 (木) 10:00～13:00	2030年の自由で開かれたインド太平洋地域のグローバルロジスティクス・セミナー	JICA横浜 「かもめ」	日本語 英語 フランス語
19	2019/8/29 (木) 11:45～13:45	アフリカの質の高い成長 ー持続可能、包摂的かつ強靱な開発を目指してー	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語

20	2019/8/29 (木) 13:00~15:00	森から世界を変える ーアフリカにおけるより良い森林ガバナンスのためのイノベティブな 技術・アプローチ	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
21	2019/8/29 (木) 14:00~17:00	アイデアからアクションへ: アフリカ×科学・技術・イノベーション (STI)	パシフィコ横浜 「展示ホール B02」	日本語 英語 フランス語
22	2019/8/29 (木) 16:00~18:00	Sustainable UHC in Africa through Building Country Ownership	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
23	2019/8/29 (木) 17:00~18:45	JICAハイレベルパネル@TICAD7 「グローバルガバナンスとアフリカの開発: アフリカと日本の対応」	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語
24	2019/8/30 (金) 9:00~11:30	JICA-AfDBアフリカ投資セミナー・新連携枠組みローンセレモニー	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語
25	2019/8/30 (金) 9:30~14:30	イノベーション推進&パートナー発掘 ー日本・アフリカ スタートアップ・ピッチー	パシフィコ横浜 「展示ホール B01」	日本語 英語 フランス語
26	2019/8/30 (金) 13:00~14:40	平和構築の実践: 地方行政とコミュニティの「失われた絆」を取り戻す	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
27	2019/8/30 (金) 13:00~15:00	イノベーションはアフリカの健康を変えられるのか?	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語
28	2019/8/30 (金) 15:30~17:30	障害とアフリカ開発: 地域社会への包摂に向けて	JICA横浜 「かもめ」	日本語 英語 フランス語
29	2019/8/30 (金) 16:00~17:30	アフリカ稲作振興のための共同体 (CARD) フェーズ2ローンチング	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「ラヴェラ」	日本語 英語 フランス語
30	2019/8/30 (金) 16:00~18:00	アフリカにおけるSDGs達成に向けた資金ニーズの充足と財政・債務持続 性の確保	ヨコハマ グランドインター コンチネンタルホテル 「シルク」	日本語 英語 フランス語
31	2019/8/27 (火) 17:00~20:00	Bon for Africa ーアフリカ盆踊りー	象の鼻パーク (横浜市中区海岸通1丁目)	ー

別紙: 農業分野のサイドイベント概要 (CARD、IFNA、SHEP、人獣共通感染症)

JICAサイドイベントHPのアドレス (メンテナンス中) はこちら
<https://www.jica.go.jp/africahiroba/ticad/ticad7/index.html>

IFNAを通じた全アフリカでの栄養改善

—栄養素やセクター連携に着目した活動の優良事例、課題、可能性—

背景

アフリカの食料不足人口は2.2億人を超え、慢性栄養不良の子どもが近年増加している。2025年の子ども（5歳未満）の人口は2億人と推計され、すべての子どもの「栄養の安全保障」が望まれる。TICAD VIで立ち上げられた「食と栄養のアフリカ・イニシアティブ（IFNA）」によって、多くの関係者によるセクター横断的な連携アプローチや必要栄養素の需要・供給量を踏まえた農業セクターの介入アプローチなどの側面から、優良事例が生まれている。2025年までに全アフリカの栄養改善を目指すIFNAの目標に向けて、こうした経験をすべてのアフリカの国々と共有していくことが求められている。

目的

2020年の世界栄養サミット開催や国際的な栄養関連指標の達成を見据え、2億人のアフリカの子どもの栄養改善に向けてIFNAの優良事例を発信し、その経験・活動を全アフリカへ拡大することを宣言する。

キークエスト

- IFNAの当初参加国の現場における栄養改善に関して、どういった優良事例があり、それらをいかにアフリカの他国に展開していくか？
- アフリカの各国の栄養改善に向けて、どういった課題（栄養指標、政策、政府の実施体制）があり、IFNAはこれからさらにどう対処していくべきか？

登壇者

北岡伸一 JICA理事長（TBC）／ Dr. Ibrahim Assane Mayaki AUDA-NEPAD 長官（TBC）／ アフリカ複数国の首脳（TBC）／ アフリカ複数国の農業大臣（TBC）／ 開発機関の長（農業／保健セクター、国際開発金融機関など）（TBC）／ Dr. Belay Begashaw アフリカ地域持続可能な開発目標センター総裁（TBC）／ Ms. Gerda Verburg Scaling Up Nutrition（SUN）事務局長（TBC）

日時：8月27日（火）16:00 - 18:00

場所：ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル「シルク」

言語：日本語、英語、仏語

アフリカにおける人獣共通感染症との闘い： 日・OIE協調プログラム

背景

アフリカにおける人獣共通感染症の突発的な流行は深刻な状況である上、人獣共通感染症分野における専門的施設・人材の能力は十分でない。そのため、これら課題解決に向け、わが国および国際獣疫事務局（OIE）の知見を活用し、感染症サーベイランスと対応の強化や人獣共通感染症に対する研究能力向上支援に取り組むことが期待されている。

目的

- 人獣共通感染症等の課題解決に向けたJICAとOIEとの協力関係強化を確認
- OIE関係者、JICA、国内の獣医学分野の研究者の登壇のもと、アフリカ地域における人獣共通感染症の課題解決に向けた討論を実施

キークエスション

- アフリカにおける人獣共通感染症の課題とは？
- 日・OIE協調プログラムを用いた1)への対応とは？

登壇者

冒頭挨拶

阿部俊子 外務省外務副大臣

パネルディスカッション

釘田博文 OIEアジア太平洋地域事務所地域代表※／Dr. Jean-Philippe Dop Deputy Director General OIE／Dr. Karim Tounkara Regional Representative OIE Regional Representation for Africa／加藤 宏 JICA 理事／Dr. Victor Mukonka Director Zambia National Public Health Institute／喜田 宏 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター統括 ※モデレーター

日時：8月28日（水）15:30 - 17:00

場所：パシフィコ横浜「アネックスホール F203」

言語：日本語、英語、仏語

100万人の農家にSHEPを

背景

Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion（SHEP）アプローチは、「儲かる農業」を実現するための農業普及手法である。農家に対し、「作ってから売る」から「売のために作る」への意識変革を起こし、農業生産性の向上と市場対応力を身に付けることによって、農家が自らの力で所得向上を実現させることへと導く。もともとSHEPは2006年に始まったケニアとJICAの技術協力プロジェクトにおいて開発されたアプローチであるが、わずか2年間で2,500もの小規模農家の収入を倍増させている。2013年の第5回アフリカ開発会議（TICAD V）でSHEP広域化が発表されて以降、SHEPの知識が徐々に浸透し、現在アフリカ20カ国以上で農業普及ツールとして採用されている。今後、SHEPアプローチが農業普及ツールとして「ふつう」化されるよう、多様な関係機関との協力が始まっている。

目的

- 包括的な農村変革の推進とSDGsの達成における農業および農村アドバイザーサービスの重要な役割について考察する。
- SHEPアプローチの意義と成果を広く共有する。
- アフリカ政府関係者および民間、関連団体とともに、SHEPアプローチを農業普及に取り込み100万人の農家のより良い暮らしを実現するための共同宣言を行う。

登壇者

国際協力機構 副理事長 越川和彦（TBC） 和／Gilbert Houngbo（国際農業開発基金総裁）
ケニア農業大臣（TBC）／マダガスカル農業大臣（TBC）／Roth k Oniang'o ササカワアフリカ財団会長
／伊藤忠商事株式会社社長（TBC） 三井物産株式会社（TBC）

日時：8月29日（木）10:00 - 11:30

場所：ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル「ラ ヴェラ」

言語：日本語、英語、仏語

アフリカ緑の革命のための同盟（AGRA）

アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）

フェーズ2 ローンチング

背景

アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）は、2008年の第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）の際に発足した国際開発機関や二国間ドナーによる協議グループであり、23カ国のコメ生産国が対象とされていた。CARDは、サブサハラ・アフリカのコメの生産量を10年間で倍増することを目標とし、順調に生産量が増加し続けた結果、2018年に目標達成見込みであることが確認された。一方、アフリカのコメ消費量の伸びは生産量の伸びを上回っており、コメの需給ギャップは引き続き拡大傾向にある。そのため、持続可能な開発目標（SDGs）の達成年限である2030年までに、さらなるコメの生産量倍増を目標とし、2019年よりCARDフェーズ2 が開始されることとなった。

目的

CARDフェーズ2 のローンチングおよび内容紹介（目標、対象国、枠組み、RICEアプローチ）

キークエスション

さらなる稲作振興に向けた「レジリエンス」、「産業化」、「競争力」、「エンパワメント」の各視点からの期待と課題とは？

登壇者

加藤宏（JICA理事）／Ibrahim Assane Mayaki（CEO, AUDA-NEPAD）／Minister of Agriculture from some countries／Harold Roy-Macauley（Director General, Africa Rice）／Matthew Morell（Director General, DG, IRRI）／Representative of FAO／本邦企業代表

日時：8月30日（金）16:00-17:30

場所：ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル「ラ ヴェラ」

言語：日本語、英語、仏語